

会報第18号発刊に寄せて

会長 K/T

本年度新津ハイキングクラブの、活動の一つの集約である「平成21年度・山行記録」（会報第18号）が完成し、会員の皆さんのお手元へお届けできることを喜びたいと思います。そして、発刊までの苦労をなされた広報部の皆さん、それぞれの山行を実施し、その都度「記録」報告の労をなされた幹事の皆さん、又、忙しい中「紀行文」を寄せてくださった参加者の皆さん、更には、全ての幹事・会員の皆さんに心より感謝いたします。

この「山行記録」が（1）その時は難儀くとも振り返れば楽しくもある山行の思い出として、（2）同じようにハイキング・登山を愛好する仲間としての共感を得る読み物として、（3）会として再度実施したり、個人として、あるいは仲間同志誘い合って行く際の道案内として・・・など、いろいろ活用して頂けることを期待しています。

ところで、今年、私個人として一番衝撃的だったことは、もちろん当会のことではないけれど、7月16日の、北海道・トムラウシ山での（夏山としては例にない）大遭難事故のことでした。というのも、ちょうど同じ日、同じ大雪山系の北部、旭岳から黒岳へ縦走を会として計画しており、事前情報として北海道は ・今年は積雪が多い ・16日は雨天 ということを知って、その日は他へ（道央北西の雨竜沼湿原へ）変更しており、同夕宿泊地の層雲峡の宿でそのニュースに接したからです。

営業ツアーと会山行、2泊3日の縦走と1日の縦走、入る山域の状況の違い等あるものの、山は日常とは違う、素晴らしい体験を与えてくれると同時に、時には自然のもつ厳しい一面にも遭遇するということを銘記しなければならないと痛感しました。心配し過ぎるのも、甘く見過ぎることもなしに、来年度も、安全で楽しい、多少つらくても、後でそれもまた楽しかったと言えるようなハイキング、登山に心がけたいものです。

さて、当会の活動が、新津地区在住の皆さんの生きがい作りの大きな一つの場となって、今後とも継続発展するためには、（1）一定以上の会員がいること。（2）会活動に皆が参加すること。（3）世話役としての幹事が更に必要です。特に（3）の幹事は、営業ツアーと根本的に違って、会の中や外でも力をつけ、その中から自分なりの出来る範囲で、また、会や皆んな（社会）のために返していくというものだと思います。どうか、これらのことをご理解いただき、今後益々ご協力くださいますようお願いいたします。

